

## 第2組正法寺 佐々木 賢成

しょうしんげ つと  
正信偈のお勤めの話をしていただきます。

れんにょしょうにん  
蓮如上人のときから始まったといわれるお勤めに関して、上人の言葉が残っています。

一つ目は「一日のたしなみには、あさつとめにかかさじとたしなめ」です。

朝、起きたらまず、お内仏に向かい、きみょう むりょうじゆによらい どくじゆ  
帰命無量寿如来と正信偈を讀誦する生活をおこたらないようにと。私は、このことを門徒の方に話をするとき、一言付け加えます。まず、理屈抜きで、声を出して読みましょうと。

二つ目の蓮如上人の言葉は「聖教はよみやぶれ」です。これも毎日のお勤めがないとできません。ボロボロになった経本がお内仏にあるのを目にしたときには感動を覚えます。また、ここで注意すべきは、必ずしょうぎょうぼん  
聖教本を手を持つということです。暗記ができていて、そらんじられるほどになっていたとしても、手に持って拝読してください。時おり、法事場で、皆で正信偈を讀誦するときに経本を配ろうとすると「私は暗記しておるから本はいりません」と言われる方に出会います。確かに長年にわたっての勤行生活に異論をはさむことはありませんが、蓮如上人の願いは受けとめましょう、と申し上げ聖教本を手を取ってもらいます。一つ私自身の「そらで読める」という過信の失敗をお話しします。同じ「てん  
じんぼさつ  
親菩薩」で始まる句が二句あります。順番を間違えそうになりました。皆さんの

中にも似た経験をされた方がおありだと思います。<sup>もんぼう</sup>聞法の場に身を置き、正信偈の内容を学べば、天親が<sup>しちこうそう</sup>七高僧の一人であり、さらには念仏往生の願いが我々に届けられていることも知るようになれば素晴らしいです。しかし、正信偈の真の目的は、私たちが、お念仏が喜びの生活の源、原動力・活力となってほしいというのが真の姿ではないでしょうか。

ある人曰く、真宗門徒にとって正信偈はごほんである。

さあ、正信偈を読誦する生活を始めましょう。